

II 平成20年度事業の実績報告

平成20年度に実施した事業につき、計画と照らし以下報告します。

〔大学〕

計画1 不正防止の取り組み

文科省の「研究機関における公的な研究費の管理・監査のガイドライン」等を始めとした種々の要請もあり、本年度は公的な補助金のみならず全大学のプロパー資金についても不正防止の為の取組を一段と強化する。社会への説明責任、透明性の高い運営を行う為本学の人的・物理的なパワーを考慮しつつ整備を図る。すでに上記ガイドラインに対応する「予算執行の不正防止に関する管理・監査体制規程」を制定して、それに基づいた「不正防止計画委員会規程」、「内部監査室規程」等所要の規程を整備して公開・実行してきているが、本年度は具体的に既存業者のシステムである「Webでの発注制度」の義務化や業者との癒着を防止する為の「指定業者制度」の導入を積極的に進める。併せて、物品等の購入手続についてのプロセスを見直し、不正を防止する為の計画を立案して実行する。併せて、全教職員にFD、SD活動、説明会等より周知していく。

実績

公的な補助金のみならず、大学のプロパー資金についても不正防止の為の取り組みを強化し実行した。具体的には、「指定業者制度」の一部として大塚商会のWebでの発注制度である「たのめーる」を全学に導入し、物品等購入のルールを定め実行した。現状では10万円未満の消耗品が中心であるが、今後発注できる物品等を拡大していく。

また、内部監査については、「内部監査室規程」により科学研究費3件、学内の競争的資金である特別研究費3件の内部監査を実施した。併せて、不正防止の観点から全学的な説明会を行うとともに全教職員が遵守すべき「行動規範」を定め、学内外に公表した。

計画2 教育上の特徴である『実工学』の学びをより鮮明にし、世界に羽ばたく技術者の育成を図る。建学の理念を確認し、それに基づき、なおかつ現代に則した「大学の理念」、「教育目標」を明文化して、全教職員、学生とともに共有する仕組みを構築する。

① 出身の高校により、入学時から2年次前半まで、学修履歴に合わせた

工学集中コース」と「工学発展コース」を用意し、多様な学生ニーズに対応する。

- ② 本学独自の「工房教育プログラム(文科省特色G P)」を強力に推進する。
- ③ 低年次から専門科目を教養系科目と同時に学ぶデュアルシステムを採用する。
- ④ 基礎的な科目(数学・物理・専門科目)を英語のテキストで学ぶ「融合科目」で学習効果を高める。
- ⑤ 卒業研究・計画を必修科目として位置付け、1年間、指導教授のもとで徹底した研究を行う。
- ⑥ 夏季・冬季休暇中に対象者に対し補習授業を実施する。
- ⑦ 学修支援センター、学生相談室の連携により、個々の学生の悩みに対応する体制を強化する。また、I Tを利用した学生の出欠管理について一部導入を開始する。
- ⑧ 外郭団体である後援会の協力を得て、父母からの学生の成績相談や就職相談等を直接全国の会場で応じる。
- ⑨ 英語教育の活性化の為「英語教育センター」を充実する。
- ⑩ 機械工学科においてJ A B E Eの申請に向けての改善を継続する。

実績

- ・開学時の「建学の精神」とそれを現代的に読み替えた「日本工業大学の理念」を定め「日本工業大学綱領」として学内外に公表した。併せて、「日本工業大学教育目標」と「実工学の学び」を定め全教職員、学生に周知、共有を図ることにより本学が果たすべきミッションを明確にした。
- ・出身高校(工業高校出身者とその他の高校)の学修履歴にあわせた「工学集中コース」と「工学発展コース」による教育カリキュラムは、本年度で3年次生まで適用され、明年度(平成21年度)で完成となる。特に問題点はないが、本学でなければ採用しないと自負するこのカリキュラムにより学修に当たりそれぞれどのような教育効果があったかは、学生に直接ヒヤリングする等してその評価を明年度にしたい。
- ・平成17年度文科省G Pに採択された「工房教育プログラムー7つの工房に

よるカレッジマイスターの養成」は本年度で完了し、平成21年2月28日にシンポジウム及び成果報告会を行った。今後も本プログラムは継続して実施していく。

- ・「デュアルシステム」「融合科目」「卒業研究・計画」「補習授業」「学習支援センター」「英語教育センター」は、計画通り進捗し学生に十分にその意図が理解され浸透している。
- ・後援会主催の成績相談会は、全国22会場で順調に開催され好評を博した。
- ・機械工学科で他科に先駆けてJ A B E Eの申請に取り組んでいるが、計画通り申請に対応するカリキュラムの改定、エビデンスの蓄積を行っている。

計画3 授業評価制度の発展

従前から、学生の授業評価と日常的な授業の質的な向上を図るとともに、学生が意欲的に取り組み、高い教育効果を得られるように教員相互による授業評価を実施する授業参観制度を別々の時期に行い、授業改善を図ってきたが、これをさらに発展させ、この二つの授業評価制度を同じ時期に実施することにし、同一授業に対しより多面的な評価・分析を行えるように改善する。

実績

計画通り「学生による授業評価アンケート」は、「授業公開・相互評価」と同時期に実施することで教員と学生の評価の違いを認識し、学期内の授業改善に結びつけることとした。「学生による授業評価アンケート」は、授業に対する学生の率直な意見を聴取し、今後の授業内容及び教育方法の改善に資することを目的としており、一方「授業公開・相互評価」は、日常的な授業の質的な向上を目指す為、専任教員及び非常勤講師が自分の担当科目の中から公開の科目を1科目選ぶとともに、自分以外の科目3科目を授業参観して報告書を提出する義務を負うというものである。本年度は、6月9～28日、11月17～12月8日の春季と秋季の2回行い、授業改善に活かしている。

計画4 「平成20年度 大学教育改革の支援等プログラム」への申請【文科省申請】
「平成20年度 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に1件、

プログラム名称「学修継続に問題のある学生と支援者への支援」で申請した。さらに「質の高い大学教育推進プログラム」「大学院教育改善支援プログラム」等に申請を予定している。

実績

平成20年度文部科学省申請G P 関係事業は、

- ① 大学院教育改革支援プログラム:申請組織/情報工学専攻(博士前期・後期) プログラム名称:ジェロンテクノロジーのスペシャリスト養成
 - ② 質の高い大学教育推進プログラム:申請組織/工学部 プログラム名称:海外の現場で活躍できる技術者の養成
 - ③ 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム:申請区分/大学
プログラム名称:学修継続の問題ある学生と支援者への支援
- の3件を申請したがいずれも不採択であった。不採択の内容を十分分析・検討して次年度の採択を目指す。

計画5 入試制度の改革

本年度の入試改革は、新規に「カレッジマイスター入試」を導入する。本学が標榜する実工学の教育方針に沿い既に文科省から採択されている特色G P「工房によるカレッジマイスターの養成」に積極的に参加し、カレッジマイスターを目指そうとして入学してくる高校のジュニアマイスター取得者(ゴールド、シルバー)等から選抜する。その他、入試奨学金対象者に対する特待生入試、センター入試に学科により国語(現代文)を追加する等一人でも多く本学の建学の理念に沿う志願者を増やす為の改革を行う。また、一昨年度から始めた一般推薦入試(指定校)制度の定着を図り、志願者増に結び付ける為、本学としては初の取組ではあるが、業務委託により1年間定期的に募集活動を行う体制を整えた。併せて、本学と各高校との連携や、本学からの出前授業プログラムを充実させる。留学生募集については、本学の留学生別科からの募集に加え、海外の大学の付属機関や高校と連携を行い、より信頼度の高い優秀な学生を受入れる体制を整備する。

実績

- ・入試改革として実施した「カレッジマイスター入試」は、所期の目標を下回ったが、本学独自の入試方法として今後とも定着させたい。「センター

利用入試」は、学科により試験科目に国語(現代文)を追加して、多様な受験生に応えた結果、かなり効果があり、受験生数が増えた。

- ・業務委託による募集体制の強化については、埼玉、千葉、福島県の普通高校を中心に1年間継続して活動した結果、その県の受験者が増えた。
- ・出前授業は、昨年度の85校から1校増の86校で実施した。102のプログラムを用意して高校生の多様なニーズに応えた結果と推測している。都道府県数では12都県に及び、高校からは好評を得ている。
- ・留学生募集については、海外の教育機関との提携を増やしている。特に、サウジアラビアの国費留学受入の打診が大使館からあり、積極的に対応した結果、学部と留学生別科に入学することになった。

計画6 学長候補者選考規程の改定

現行では、長年学長候補者の選考を選挙で行ってきた。しかしながら、近年の厳しい大学を取り巻く環境の中、他国公私学を問わず選挙を中心とする従前の学長候補者選考規程を改正して、学長のリーダーシップが発揮し易くする選考(選考の為の会議を設ける等)方法に変わってきている。本学においても、時代の推移・趨勢を客観的に判断し、法人の内外を問わず、本学の建学の精神と教育方針に十分な理解を有し、かつ教育研究活動を適切にかつ効果的に運営する能力を持つ者を学長候補者として選考する為にはどのような選考方法が良いか検討し、規程を改正する。

実績

平成20年4月24日付で「日本工業大学学長候補者選考規程」及び「日本工業大学学長候補者選考会議規程」を制定した。骨子は、学長を選挙で選ぶ方式を改め、本法人の内外を問わず、人格・学識が優れかつ本学の建学の精神等を十分理解し本学を効果的に運営する能力を有する者から選考会議で候補者1名を選び、理事長に推薦すると定めている。

計画7 (財)日本高等教育評価機構から認証評価受審

文科省から求められている7年1回の認証評価受審を本年度行う。3つの認証評価機構のうち(財)日本高等教育評価機構に決めたのは本学が日本私立学校協会の加盟校である点大きいですが、私学の特性をより理解した上で適切な評価を受けられるものと期待してのことである。今回は、自己

点検・評価報告書の作成に当たり約60%の教職員を動員して、平成15年に(財)大学基準協会の相互評価を受審したが、その折りに指摘を受けた事項については今日まで改善を図ってきた。今回の自己点検・評価報告書作成においては、前回の反省も踏まえ執筆者を限定して案を作成し、全学に公表して手直しを行い、評価を受ける。

実績

平成21年3月24日付で(財)日本高等教育評価機構より「貴大学は平成20年度大学機関別認証評価の結果、本評価機構が定める大学評価基準を満たしていることを認定する」旨の認定書を得た。この評価結果には条件は一切なく、平成20年4月1日から平成27年3月31日の認定期間となっている。認証受審に当たっての自己点検報告書は、執筆者を限定して案を作成し全学から意見を求めて提出した。認証評価の結果は、学内外に本学HPを通じて公開している。

計画8 学科再編等の検討

入試応募状況が学科によりバラツキが大きい為、建学の理念のもと社会、受験生のニーズにより応えられる学科再編や定員の見直し等、多角的に検討してきたが、本年度は平成21年4月に向けて以下の内容で文科省に申請を行う。現行5学科体制から7学科体制として、システム工学科は名称変更を行う。新学科は、本学が目指すものづくり環境や我々を取り巻く生活環境を見つめ、工学技術を踏まえて環境改善に取り組むエンジニアを育成することを教育の目標に掲げている。

なお、入学定員は1,000名で変更しない。

工学部(現行)		工学部(平成21年4月:申請中)
機械工学科(200名)	→	機械工学科(200名)
システム工学科(200名)	→	創造システム工学科(140名)名称変更 ものづくり環境学科(50名)新設
電気電子工学科(200名)	→	電気電子工学科(160名)
情報工学科(200名)	→	情報工学科(200名)
建築学科(200名)	→	建築学科(200名) 生活環境デザイン学科(50名)新設

【ものづくり環境学科】

環境対策は、ものづくりの総ての段階で重視する必要がある、それに
応える為に工学の基礎的技術を踏まえ、省資源、省エネルギー、低公害に
配慮した設計、環境汚染対策を充実させた効率的な生産管理等を総合的
に学ぶ。

【生活環境デザイン学科】

人が生活するさまざまな空間(住空間、公共空間、商業空間、福祉空間)を
心地よい空間となるように環境に配慮したデザインを行い、実現する為
の技術を建築学の基礎を踏まえて学ぶ。

【創造システム工学科】

システム工学科の創造システム工学科への名称変更は、この学科の教育
目標をさらに明確に学科名称に反映させ、時代のニーズに対応した教育
内容の充実を目指す為であり、ロボット技術とマイクロ・ナノ技術を学
ぶコースを設けた。

実績

文科省に学科再編の届出を平成20年5月2日に行い、平成20年6月30日付で
受理された。初年度の入学状況は、定員を若干下回った。新学科コンセプ
トの明確化、高校・高校生への周知等また教育研究施設・設備のさらなる
充実を行い、明年度は入学者増を図りたい。5学科から7学科体制への
移行の意味は、科学技術の急速な進展にあわせ社会が求める技術者への
ニーズは多様化しており、本学はこの学科再編により21世紀の大きな課題
である環境、福祉、マイクロ・ナノ等に的確にアプローチし問題解決が図れ
る実践的なエンジニアの育成を目指すところにある。

計画9 図書館(L&Cセンター)の社会への積極的な開放

本学は、生涯学習センターを通じ地域住民を中心に学習の機会を提供し
てきた。また、附属施設である工業技術博物館は、その所蔵の機器178点
が登録有形文化財に本年登録される等、わが国近代工業技術の発達過程
が分かり、しかも動態保存であることの特長をもつ博物館として公開・
評価を受けている。本年度は、学園百周年の記念建築物である図書館(L &
Cセンター)を開放して地域住民が利用できるようにする。

大学が地域に開かれ積極的に貢献することは社会から強く求められていると認識している。また、昨年度になるが、大学の所在地である宮代町と「災害時に於ける相互協力に関する協定書」を取り交わした。大規模災害時での施設等の提供ばかりでなく、高齢化している町に若い学生の力で協力・貢献して欲しいということが期待されている。町からはさらに大学と町の連携を強化する為包括的で総合的な協定を締結したい旨の要請があり、可能な限り協力していく。

実績

- ・本学は、開かれた大学を標榜し、地域(住民)に対する生涯学習教育に力をいれてきた。その一つとして、LCセンターの図書館機能を地域(住民)に開放した。年間入館者は延約14万人であるが、地域(住民)も100名以上の利用者があり、登録してもらえれば館外貸出にも対応している。地域(住民)にPRをさらに行い利用促進を呼びかけたい。PRとしては、町の広報誌への掲載や町使用の封筒への広告掲載等は行った。
- ・大学と町の協定は、「災害時における相互協力に関する協定書」について11月25日「包括協定」を締結した。これにより従来からの協力関係も含め具体的な相互協力について検討されることになる。
- ・動態保存を特長とする工業技術博物館は、経済産業省から「近代化産業遺産」として認定され、その認証授与式が2月23日行われた。認証対象は、「近代日本のものづくりを支えた機械の歩みを物語る遺産群62点」と「日野式2号飛行機(レプリカ)の航空機産業遺産群」である。ものづくりを教育理念として掲げる本学の特長を顕す工業技術博物館をさらに充実させていく。

計画10 安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理体制を構築する。規程を制定し、安全衛生委員会を設置し、職員の安全確保及び健康の保持増進を図り、快適な職場環境を形成する。併せて ISO14001環境管理活動との連携を行い、環境負荷の高い化学物質、産業廃棄物等の取扱並びに学生の安全衛生を守る観点と学習環境の向上を含め進める。

実績

安全衛生管理体制は、法律に則り「安全衛生管理規程」「衛生委員会規程」を整備し全学を挙げて取り組む課題であり、今後とも継続して努力する。IS014001の環境管理活動との連携は、十分行われている。

計画11 本館西側のサッシ化と食堂の照明の高効率化

建設委員会を発足して施設中期計画の立案を始めた。本学のキャンパスに足りないもの、配慮に欠けるもの等を抽出して、根本的な見直しを図り具体案を作成する。併せて、中長期の目標を策定する。キャンパス環境をさらに充実し、受験生の視点も考慮したキャンパスを目指している。当然、平成21年開設の2つの新学科に対応する施設計画も必要である。本年度は、本館西側窓のスチールからアルミサッシ化の変更と食堂の空調・照明の高効率化を大規模工事として予定し、エコキャンパス計画を推進する。

実績

- 本館西側のサッシをアルミサッシに取り替えた。これにより本館は全てアルミサッシとなりアメニティーが改善された。
- 食堂(学生ホール)の省エネ化工事を実施した。NEDOの「建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業」の補助申請が採択されたもので、この工事により食堂(学生ホール)は約30%、キャンパス全体では1%の省エネとなった。
- 駐輪場の整備を行った。

このようなキャンパス整備を行ったが、平成22年10月を目途に新学科等に対応する施設整備については建設委員会で検討している。

〔中・高校〕

計画1 平成20年度の指導方針として以下を検討している。

- ・ 教員の欠勤による(自習・課題授業)を極力少なくする。
- ・ 基本指導目標(時間厳守・挨拶励行・校内美化)
- ・ 「学年通信」の定期発行
- ・ 生徒の欠席・遅刻を極力排除する方策
- ・ 学科ごとに「授業計画」の内容について確認する。
- ・ 定期試験についての検討
- ・ 授業の内容の再点検
- ・ 新入生合宿の検討
- ・ 全校『暖かさ』テーマ展の開催
- ・ ものづくりへの支援
- ・ 日本工大、LC進学への努力
- ・ 他大学進学への具体化と支援策
- ・ 教科書を含めたテキストの作成
- ・ 女子生徒指導
- ・ カウンセラー室の利用
- ・ 担任先生とのミーティング
- ・ 学習支援室の利用
- ・ 学校開放日の運営方法
- ・ 資格取得への支援

実績

各項目とも教員の努力によりほぼ初年度の目的は達成できた。但し、「教科書を含めたテキストの作成」は長期的な業務であり、引き続き作業を実施し完成年度までに完成させる。

計画2 教育運営上の支援

- ・ 100周年記念ホールの地下に設置した「カウンセラー室」について、経験豊かな2名の専属教員により生徒、保護者、教員の相談を含め対応させる。
- ・ 学習支援室の強化
学習支援室として前年度よりスタートしたが、自習や質問をする生徒が

増えており、今後も強力にサポートする。また、パソコンを利用し塾の先生と直接対話しながら学習するシステムを導入し現在4～5名の生徒が利用している。

- ・普通科の生徒に対する「ものづくり」への支援
- ・外部体育館の利用(部活動)

実績

- ・カウンセラー室:当初予想したよりも多くの相談者があり、2名のベテラン教員によるカウンセラー室の設置はよい結果をだしたと考えている。尚、結果についてはできる範囲において職員会議で報告されている。
- ・進学プロジェクトの支援:学習支援室を核に進学プロジェクトの支援をおこない、理系・文系の進学に対してよい結果をだしてきた。この結果は、普通科のカリキュラムでなく、工業の科目を多く学ぶ工業系カリキュラムによる成果である。

特に女子は1期生16名(理数工学科及び国際工学科)が頑張り希望する進路に進んだ。

今後、普通科の募集に伴い生徒の多様な進路に対応できると考えている。

- ・普通科の生徒に対する「ものづくり」への支援:授業以外にも、ものづくりの好きな生徒に対しては、部活動や教員が個々に指導しており、資格取得を目指す生徒も多い。
- ・外部体育館の利用(部活動):外部体育館や外部のプールを利用しているが、今後は費用面でも支援していきたい。

計画3 学費改定

高校は平成7年度より19年度まで12年間、学費を据え置いてきた。この間、多々経営努力を行ってきたが、生徒数の減少に対する募集活動の活発化に伴い経費の増加が著しいので学費を20年度より改定する。

実績

平成20年11月に申請通り受理された。

計画4 募集活動

① 中学

- ・本年度も3クラスの生徒数を確保する。

- ・前年度女子の入学生は5名であった。今年度はさらに増加させる募集対策を実施する。
- ・入学した生徒の教育運営をきちんと行う。
- ・前年度と同様に塾説明会の実施と塾訪問を実施する。

② 高校

- ・募集定員は前年度と同様とする。
- ・普通科、工業科とも推薦基準を守り、アップする方向で募集する。
- ・入学した生徒の教育運営をきちんと行う。また生活指導にも力を入れる。
- ・前年度と同様に中学校訪問と塾訪問を実施する。

③ 中学・高校

- ・オープンキャンパスや生徒・保護者対象学校説明会を実施し、本校の教育方針やカリキュラムの説明及び施設の見学等を行う。
- ・オープンキャンパスに来校した受験生の受験率が高いので内容をさらに精選し、より理解してもらえるように努力する

実績

- ① 中学: 上記募集活動を積極的におこない3クラス、107名(内、女子12名)を確保することができた。特に100名を越えたことは将来計画に大きな力となった。
- ② 高校: 入試広報室を中心に募集活動を行い、21年度募集は471名(併中生を含む。内、女子29名)という結果になった。特に9月から12月までの4ヶ月間は、全教職員がほとんどの土日を使用した説明会等で頑張った結果であると考えている。また、今年度の特徴は、推薦Bいわゆる併願推薦が増えたことが挙げられ、結果として入学者が予定した人数となった。
- ③ 中学・高校: 募集が本格化した時期から金融危機が発生し景気も急激に下降線をたどり失業者の増加と厳しい経済状況であったが、中高特に中学の募集では大きな影響がでなかった。また、中学・高校それぞれ特色をだした説明会によりよい結果がでたと考えている。

計画5 施設設備について

① ミニ鉄道のレール敷設(中・高校)

実習で製作したミニSL、ミニ電気機関車、ミニディーゼル機関車を校内

で走行させる為に正門脇から100周年記念ホール入口まで常設のレール敷設工事を行う。

両方の終点には、それぞれターンテーブルを設け機関車を先頭に走行できるように設計されている。使用したレール及びターンテーブルの設計は、機械科が行った。これからミニチュアの建物製作(建築科)、信号機関係の製作(電子情報システム科)を行うことにより三科の製作したミニ鉄道を中学、高校普通科を含めた全校の施設として活用していきたい。

② 購買部(売店コーナー)の開設

20年6月末を目処に取進める。

③ 女子トイレの改修工事

北側4階の男子トイレを女子用に改修する。次年度計画していた改修工事であったが、前倒しにして実施する。20年6月末を目処に取進める。

④ 校庭のゴムチップ改修工事

20年6月末を目処に取進める。

⑤ 調理・被服室に改修する為の工事(検討中)

⑥ クラブ棟改修工事(検討中)

⑦ 中学の為の学習支援室準備

⑧ CADセンターのディスプレイを劣化と故障の為50台交換する。

⑨ 旧図書館の空調設備の改修

⑩ 下田寮の高架水槽及び屋上配管更新工事を実施する。

実績

① ミニ鉄道のレール敷設(中学・高校):正門脇からレールを敷設、鉄道のある学校というイメージになった。今までと違うのは普通科もある学校でこのような施設があることである。説明会や文化祭等で使用してよい結果がでている。

② 購買部(売店コーナー)の開設:平成20年6月、3階に開設された通称「コンビニ」は昼休み、放課後と多くの生徒が利用し100周年記念ホールのスチューデントホールと合わせてよいスペースとなっている。

③ 女子トイレの改修工事:4階の男子トイレ1箇所を女子用に改修した。これにより校舎地階から4階すべての階に女子トイレが設置された。

- ④ 校庭のゴムチップ改修工事:新校舎建設時施工した人工芝の傷みがひどく、新しいタイプの「砂入り人工芝」にした。砂入りでクッションもあり、評判もよい。
- ⑤ 調理・被服室に改修する為の工事(検討中):検討中であり、平成21年度には、実施したい。
- ⑥ クラブ棟改修工事(検討中):検討中であり、平成21年度には実施したい。
- ⑦ 中学の為の学習支援室準備:検討中であり、平成21年度には実施したい。
- ⑧ CADセンターのディスプレイを劣化と故障の為50台交換する:新しいディスプレイに交換した。
- ⑨ 旧図書館の空調設備の改修:新しい空調設備に交換した。
- ⑩ 下田寮の高架水槽及び屋上配管更新工事を実施する:計画通り全面的に実施した。

〔法人〕

計画1 専門学校

平成17年度開学来、学生獲得が低迷している状況にあり。

募集活動を行う関係者から、わが校の校名：日本工業大学専門学校に「工業」が入っており、硬いイメージが強く、また、学科名称「高度情報システム科」及び「電気電子ネットワーク科」も同様に、入口の段階で敬遠されがちとという意見を受け、より女子受験生、普通科受験生にも好感が持たれ受け容れ易い名前として、平成21年4月より、次の通り変更すべく取進め中である。

学 校 名：神田情報ビジネス専門学校

学科名称：情報ビジネス科、情報デザイン科

ホームエレデザイン科

競争激甚な中、一昨年来軌道に乗り出している募集活動(学校訪問・校内ガイダンス参加・日工大OB教員へのアプローチ・HP/マス広告等)をベースにして、上記変更認可を早期に取得した上で、上記校名変更と学科名変更の併記表示と共にその効果を取込ながら且つ本校のその面倒見の良さと2年間の輩出実績を示しながら、全力を挙げて学生獲得に努めることで取進める。

実績

懸命に募集活動を行ってきたが、平成21年度新入学生の獲得は32名(入学定員100名)であった。過去4年間の実績：平成17年度29名、18年度19名、19年度22名、20年度28名の中では最も多い状況。

専門学校を取り巻く環境は、特に大学が少子化に伴い、推薦入試開始時期を年々早めると共に入試枠を増やす等、各校の募集活動の拡大によって競争が益々厳しくなっている現状。また、専門学校間においては、工業系の他校において特待生特典等様々な名目を付けて本学学費と同額乃至下回る割引を適用するところが増えている状況で苦戦している。

一方、新学科名称の一つであるホームエレデザイン科については、他の新学科名称と同様に同変更を織り込みながら募集活動を展開したが、馴染みの薄い学科名の為か、全く反応がないに等しい状況で、当初の目論見が外れてしまったと判断され、種々検討の結果、「CGテクニク科」に再度

変更することとした(平成21年度早々に認可を得、平成22年度より実施の予定)。

尚、大学から募集活動の経験者1名を出向派遣願い協力頂いていたが、大学内の人事異動により、平成20年9月末をもって大学に戻る事となった為、新たな募集活動の体制として、女性1人を含む3人の募集活動体制を組み平成20年度後半の募集活動に臨んだ。